

＜第8回目までを終えて 地域連絡会の今後の方向性に関する意見＞

- 高齢化が進んでいる。防災・防犯だけでなく、高齢者の日常生活への対応、声かけなどが重要。
- 四中で自転車の講習会など開催されてうれしい。PTAとして関わることはできなかったが、新しい役員に引き継いでいきたい。
- 地域の様々な活動を知ることができたので、自分が所属する団体でもできることを検討したい。
- 地域連絡会だよりには協議会化が書かれているが、アンケートで連絡会の継続を望む意見が多い。
- 連絡会が続くことは良い。組織化して役員を置くことよりも、通学路のカメラ設置や避難所マニュアルなど、他団体に意見を聞きたいことが多いと思う。
- 学園西町地域の団体同士で話し合いたい、意見を聞きたい、応援を頼みたいことがあれば集まれるようなシステムができればよいと思う。
- 新しいものを作る時は、途切れなく流れることが大事。優秀な人材が出てくる仕組みが必要。
- 協議会を作ろうと集まっている認識を持っているが、作って何をやるかが見えない。
- 連絡網のようなものを作って風通しをよくするのか、防災のために集まるのかによって形は変わってくる。防災なら、消防署経験者がいたほうがよい。方向性がないと、協議会をつくってもしょうがない。
- 商店会は人手不足。特に若い人がいなくて色々できない。若い人が集まる視点が必要。
- グループワークなどいろいろな形があった。情報交流の面では成果があったが、やはり形にしていく必要がある。高齢化も進んで、介護保険の地域包括支援システム、自立支援法など地域が自立しないといけない。地域が自立するにはコミュニティが必要。求心力があるものを進めることがよい。
- 協議会化の時期を決めないといけない。セクションを超えることは難しい。モデルケースを積み上げていくことが必要。
- 連携も少しは進んだ。協議会化にこだわらなくてもよいと考えている。
- 早く協議会にしてほしい。地域のことを知ることの大切さを感じた。
- 情報交換の中で、テーマが収斂されて会が取り組む形がよい。
- 団体ごとの共通の課題が見当たらなかったが、町会が言うように高齢者の居場所づくりや見守り、災害時対応の声が一番大きかったように感じる。情報交換は良かった。
- 各団体でアピールする場として協力を仰いでいくような仕組みが良い。
- まちづくりの視点からの目標が必要なのではないか。
- 連絡会のおかげでつながりができた。ゆるい関係もよいとは思いますが、会で何かをやるとすれば、課題を見つけて取り組んだほうがまとまった動きができる。
- イベントの紹介、意見を求めたいこと、話し合いたいことを持ち寄るフォーマットがあれば便利。

【今後の予定】7月14日（火）に、鶴ヶ島市での地域支え合い協議会の活動を視察に行き、9月頃、第10回地域連絡会を開催し、視察報告します。

＜視察概要＞

鶴ヶ島市では、「地域の急速な高齢化」、「自治会加入率の低下」、「地域の関係性の希薄化」などの課題へ対応するためのモデルとして、平成23年度より「地域支え合い協議会」の設立が進められました。

地域支え合い協議会の特徴的な事業としては、助け合い隊（庭木の剪定、外出の補助）、小学生への宿題サロンや高齢者福祉介護セミナーの開催、防災活動などの取り組みです。

さらに、平成26年4月にNPO法人へ移行をしております。

学園西町地区地域連絡会は、地域団体以外の方でも、どなたでも参加できます。

事前の申込みは必要ありませんので、ご近所の方とお誘い合わせのうえ、どうぞ、ご参加ください

※この「地域連絡会だより」は、地域における情報共有を目的に、学園西町内の世帯にお配りしています。